

平成18年度 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所
法曹実務専攻(法科大学院)

法学既修者認定試験問題
入学試験 (B日程) 第2次選抜 (論述試験) 問題
(問題は共通です)

刑 法

配点 100点

時間 90分

※ 試験開始の合図があるまで、
この問題冊子の中を見ないこと。

B 日程 論述式試験問題 「刑法」

既修者認定試験問題

第1問 (配点 50 点)

A は13歳4ヶ月の中学2年生で、平均をやや下回る程度の学力の、しかし逸脱気味の、体の大きい生徒だった。小学3年生の弟Bと小学1年生の妹Cと母親Xとの4人暮らしだった。Xは、スナックのホステスであったが、欠勤がちなこともあり、生活費に窮していた。そこで、かつての客で今は肝臓機能障害のため来店が間遠になった1人暮らしの老人Mの留守宅で金員を盗むことを計画し、Aに実行するようもちかけた。Aは渋ったが、「私だってお前たちの世話しながら夜働いているんだし、小さいBやCにつらい思いをさせるのはお前だっぴいやだろう、中学生なんだから自分勝手なことを言わないで、お前でなきゃできないんだからやっておくれよ。」などと説得され、実行することにした。XはAに、Mが毎週木曜午後は病院での診察のため外出し6時過ぎでなければ帰宅しないことを教え、M宅の見取り図を示し、庭側の窓の一箇所は閉まりが悪くいつも施錠されていない状態でそこから中へ入れること、及び現金が通常しまっている場所を教えた。Xはかつて泥酔したMをM宅の中まで送ったことがあり、そのときMが酔いにまかせてXを口説こうといろいろ喋ったり、財布の置き場所とは別の所に箆筒預金してある数十万単位の現金を見せたりしたことから、XはM宅の事情に詳しくあった。

ある木曜の4時過ぎ、AはXに促され、20分ほど離れたM宅に忍び込んだ。Xは自宅で待機していた。ところがAがM宅に入り込んでみると、Xに聞いていた場所に現金はなかった。やむなくAはあちこち探してみたが現金はなかなか見つからなかった。そうこうしているうち、Mが帰宅した。Aはトイレに隠れ逃走の機会を窺っていたが、宅内の様子を少し不審そうにしているMが小柄でひ弱そうに見えたことから、喧嘩などのときのために普段持ち歩いていたナイフを思い出し、Mを脅して金を奪うしかないと考え、顔を見られないよう背後からMの首にナイフを突きつけ、しまっていた現金78万円を取り出させた。Aはそれを奪うと、追いかけて逮捕されないようMを力いっぱいその場に突き倒し、逃走した。Mは打撲で一時的に立ち上がれなかったが、痛みは翌日にはほぼとれていた。Aは奪った現金をそのままXに手渡した。Mとの事情を聞いたXはAをねぎらったが、現金はそのまま受け取った。

Xの刑事責任を論じなさい。

第2問（配点50点）

以下の事例について、Xの刑事責任を論じなさい（ただし、特別法違反を除く）。

Xは、長年交際していたA子に別れを告げられたことから、A子を恨むようになり、ある日、覆面で顔を隠して、A子の在宅中にA子が居住するマンションの居室に侵入し、A子を激しく殴打した。Xは、A子に「殺さないで。これを持って行って」といわれたため、一度腹部を強く殴って殴打をやめ、ぐったりしているA子を放置して、当初から予定していた通り、物取りの犯行と見せかけるため、現金等が入ったA子のバッグを持って立ち去った。Xが最後に腹部を殴ったことにより、致命傷が形成され、A子は約30分後に死亡した。

Xは、A子のマンション居室を出た後、これも当初から予定していた通り、放火の目的で、A子が1人で経営していたスナックに向った。Xは、マンション居室を出てから約1時間後にスナックに到着し、入口の鍵を壊して侵入したが、放火は断念し、やはり物取りの犯行と見せかけるため、店内のレジスターから現金を持ち去ろうとして、レジスターを開けたところ、XがA子に借金をしたときに作成した借用証書が出てきたため、同証書を燃やした上、現金を持ち去った。

Xは、犯行の発覚を防ぐ目的で、バッグを、帰途に通りかかった公園の土の中に埋め、現金は自宅に持ち帰って封筒に入れ保管した。